

2011年度

| | | | | | |
|--|---|----|-------|-----|-------|
| 科目名 | 考古学B | | | | |
| 担当教員 | 栗田 薫 | | | | |
| 配当 | 文 2・教育2・人間2 | | | コード | 45014 |
| 開期 | 後期 | 講時 | 木曜日5限 | 単位数 | 2 |
| 授業テーマ | 弥生時代の石器研究 | | | | |
| 目的と概要 | 弥生時代の日本先史時代における位置を述べ、従来の研究で確立された編年について紹介したのち、弥生時代に認められる石器を紹介する。新しく議論されている石器の技術的研究を概術したうえで、その方法を適用した研究を紹介する。 | | | | |
| 成績評価法 | 授業での理解度40%、期末試験の成績60%、授業での理解度は授業終了時に毎回提出してもらった小レポートで評価します。期末試験については記述の論理性、ならびに考古学の知識の深さが評価されます。 | | | | |
| テキスト | 使用しない。授業中にプリントを配布する。 | | | | |
| 参考書 | 栗田薫『弥生時代石器の技術的研究』(真陽社刊行) | | | | |
| 履修に当たっての注意・助言/準備学習 | 特別な知識は必要としません。知識を覚えるのではなく、推理が成立する根拠を求める思考が必要です。考古学に興味をもつことが大切です。考古資料をみるために博物館などに足を運びましょう。 | | | | |
| 講義計画 | | | | | |
| 第1回 日本先史時代における弥生時代の意味 第2回 弥生時代の編年 第3回 弥生時代の石器概観 第4回 石器研究の方法(1)―標識石器の定義― 第5回 石器研究の方法(2)―石器遺物の定量的研究― 第6回 石器研究の方法(3)―石器の技術学― 第7回 石器研究の方法(4)―石器の機能研究― 第8回 石槍・石剣・石斧―大型打製石器の研究史― 第9回 大型打製石器の型式分類と時期・空間分析―系譜論の限界― 第10回 メソッドとテクニック、そして動作連鎖 第11回 接合資料の研究の可能性 第12回 大型打製石器の製作工程と定性資料 第13回 石器接合資料と「精神的接合」―池上・曾根遺跡出土資料の検討から― 第14回 弥生時代石器の研究 第15回 総括 | | | | | |